

認知症の人と接するときの心がまえ

「本人は何もわかっていない」は誤りです

認知症の人は「何もわかっていない」と介護者は思いがちですが、それは間違いです。認知症の症状に、最初に気づくのは本人です。もの忘れが増えたり、今までできていたことができなくなったりする変化に、誰よりも本人が驚き、「何かがおかしい」と混乱しているのです。まず、その気持ちを思いやりましょう。

「その人らしさ」を大切にしましょう

認知症の人の「個性」や「歴史」を尊重しましょう。人は「自分らしさ」が尊重されていると感じられる環境であれば、安心して過ごすことができます。「認知症の人」としてではなく、「その人らしさ」を大切に接しましょう。

「否定よりも肯定」の気持ちで接しましょう

介護者は、認知症の人の思わぬ言動に戸惑うことがあります。そのなかで、間違いや失敗などがあつたときに、強く否定をしたり、説得を試みたりすると、認知症の人の罪悪感や孤独感をつのらせてしまいます。失敗しても「大丈夫」と肯定する気持ちをもって接しましょう。

認知症の人をサポートするときのポイント

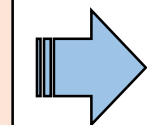
- ①その人の自尊心を傷つけるような態度をとらない。
- ②その人の個性を尊重し、言葉になりづらいメッセージをさぐる。
- ③自立を目指した間違いや失敗に対しては、まず「大丈夫」と肯定する。
- ④地域社会や家庭の中で、何か大切な役割が果たせるように支援する。
- ⑤言葉以外の笑顔やスキンシップによるコミュニケーションも心がける。
- ⑥ひとりで介護を抱え込むのではなく、複数の人と協力して支える。



状態に合わせた対応を

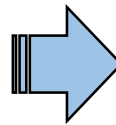
まずは相談！

今までと違うことに気づいたり、不安を抱えたりすることがあれば、そのままにしないで相談しましょう。



本人の不安を和らげる

「認知症の人は何もわからない」のではなく、一番心配で心細く、苦しんでいるのは他でもない本人です。



居場所をつくり、仲間を増やす

安心して過ごせる居場所をつくり、仲間と交流しましょう。また、将来を見据えた今後の生活設計を早いうちから家族と話し合っておきましょう。